

広報はだの12月1日号に関するアンケート

作成日：令和5年12月15日

| | |
|-----|-----|
| 回答数 | 163 |
|-----|-----|

問1 市内の商店街の主な利用目的は次のうちどれですか。（複数回答可）

| 項目 | 回答数 |
|-------------|-----|
| 食料品の購入 | 16 |
| 日用品の購入 | 7 |
| 飲食 | 123 |
| イベント参加 | 6 |
| その他 | 11 |
| 商店街で買い物はしない | 26 |

その他：商店街があることを知らない

自分の行くお店が商店街なのかわからない など

問2 商店街デジタルガイドブック「メルカHADANO」を知っていますか。

| 項目 | 回答数 |
|----------------|-----|
| 知っているが、見たことはない | 9 |
| 見たことがある | 9 |
| 知らないし、見たこともない | 145 |

問3 秦野にぎわいWEBサイト「はだのにぎわい商店街」を知っていますか。

| 項目 | 回答数 |
|----------------|-----|
| 知っているが、見たことはない | 11 |
| 見たことがある | 8 |
| 知らないし、見たこともない | 144 |

問4 広報はだのを読んで、ご意見がありましたらお聞かせください。

- ・ そもそも、どこからどこまでが商店街かわからない。
- ・ 秦野市役所として商店街のPRをもっとするべきでは。
- ・ デジタルガイドもサイトも知らなかった。もっとPRが必要。
- ・ 秦野市役所はこの先商店街をどうしていきたいのかわからない。
- ・ 最近はまだパワハラやいじめ問題の報道が多い。秦野市役所はそういった問題が再発していないか心配。

- そもそも市役所による商店街のPR不足。特に705の道路整備は着実に進んでいるのに、かつてあった商店街はなくなって、市役所による街づくりや商店街に対する考え方が後手後手になってしまっている。市役所として商店街をどうするか考えるのは商店会だと根本の考え方を変えない限り街づくりも商店街の活性化も実現しない。商店会もやる、市役所もやる、一緒にやるという考えを持たない限り何をやっても中途半端に終わってしまう。
- 補助金や電子通貨をやっているが、全て小手先の施策に思う。肝心の商店街の活性化の為に、商店街で商いをやろうという企業や個人事業主が出てこない結局は廃れてしまう。そういう企業や個人事業主が出てくる為には、商店街だけじゃなくてその周辺の街づくりに魅力がないと、そこで商いをやって儲かるかどうか確信を持ってない。今の秦野市にはそれがない。だから、新しい人が出てこない。横浜とかは毎年新しい人がたくさん手を挙げてやってきているよう。そういう風にしないと代替わりがされずに徐々に衰退する。市役所はもっと考えて。
- 空家補助金は商店街で営業したい人向けの補助金。クーポン券は商店街利用促進の為の取組。どちらも商店街の活性化としては今ひとつ。結局空家補助金は植った種に水をやる行為だから、そもそも新しい種を用意する取組がない。じゃあ、その種を用意して植えるには、土が必要。この土が秦野市にはない。街づくりがない。秦野市役所は秦野市をどんな街にしたいんですか？4駅賑わい創造というけれども、秦野駅北口ばかりな気がする。他の3駅のビジョンが具体的ではないし、取り組みも市役所としてやっている事はほとんどない。
- 商店街自体ある事を知らなかった。
- 秦野に越してきて7年、6歳4歳2歳の子供を達を育てています。小さな子供を連れていけると、駐車場のない商店街のお店に入ることはなかなか難しく、買い物等は大きなスーパーを、飲食店も早く提供してくれるチェーン店に頼りがちです。素敵なお店があることを知り、子供たちがもう少し大きくなったら一緒に買い物に行きたいなど思いました。地域の方と触れ合う機会が減ってきている今日、子供達にとっても知り合いの輪が偏っている大人にとっても大切な場であることを実感しました。
- 今回の紙面トップは、一つの飲食店を大々的に取り上げているので、この飲食店がとても大きなPRをできているなど思いました。市の広報なので、このお店だけでなく、この補助金を活用した様々な飲食店を取り上げても良かったのかなと思います。公平性があるといいなど思いました。
- デジタルガイドもWEBサイトの存在自体をお知らせすべき。それをお知らせしないと作って満足で終わる。今の学生でもそんな事はしない。秦野市役所の悪い所であるPR不足が露呈している。小田急市内駅賑わいと商店街の賑わいは切っても切り離せない。はだの魅力づくり推進課と産業振興課は一種の一連托生の関係だから連携してほしい。秦野市役所は悪しき縦割り行政の風習が色濃い。秦野駅北口は取り組みが深化している一方で他はほとんどない。多少の違いはあってもいいがあまりにも差別化が激しい。行政としてそれでいいのか？
- 商店街の活性化には、そこでお店を開くだけの街としてのパワーやメリットがないと、誰もやろうと思わない。今の商店街も高齢化がある中で、いかにアップデートしていくかが重要なのに、どれもこれも付け焼き刃のような施策。しかもガイドもサイトも知らない人が多いから、いよいよ意味も効果もあるのか。結局は秦野の街づくりのビジョンがないから。スマホ講座もいいけど、市役所自体のデジタル化やDXの取り組み状況をお知らせすべき。デジタル庁ではデジタル推進員を募集しているから、その推進員を活用するとか考えないのか？
- 1月15日号も発行してほしい。
- 賃金が低いままなのに、公務員だけ給料が上がるのは納得がいかない。ついこの前も議員の給料が上がっている。
- ピザ屋さんとても美味しいです。また行きたいです。
- 商店街の人って、自分たちの店を魅力的にしようって努力がなくないませんか？昔と同じままで「人が来なくなった」「大きなチェーン店のせいだ」って言うても仕方ないですよね？そりゃ安さとかでは大型店に敵わないだろうけど、今の人がほしくなる物やサービスを考えないんですかね。努力しない人たちに税金使って延命するのってなんだか腑に落ちないです。税金で対策するなら、本人たちも努力してほしい。
- 秦野市役所は商店街云々よりも、市全体のまちづくりをもっと本気で考えてほしい。道路は作るけれどそれでどうしたいのか、よく分からない。秦野北口も道路が広がる事をきっかけに言うけれど、本来は逆。そして、秦野だけじゃなくて東海や鶴巻、渋沢はどうなのか？特に渋沢は何も進んでない。渋沢丘陵の計画が出来た時は期待したが、それだけで終わっている。無駄に地元の期待を上げさせて、それで落とすのはやめてほしい。
- 正直、今の商店街よりもスーパーの方が何でも揃っているし便利。商店街の必要を感じない。

- 秦野市在住の商業者ですが、商業は平塚や藤沢でやっています。正直な所、秦野市の街そのものに魅力を感じません。秦野市全体の街をこうしたい！こうしている！という意思表示が少ないからです。駅前だけじゃなくて、秦野市全体や周辺の街とどうやって盛り上げるか、盛り上げていくか、それが目に見えないと商いしようとは補助金とかがあっても思えません。更に申し上げると、商業者は気持ちがあれば最悪お金がなくてもやります。お金があっても集まらないという事はそういう事です。厳しい言葉ばかりで失礼しました。
- 産業振興課はもっと商店街活性化を真剣に考えてほしい。職員の姿勢を見ると、どうしても受け身の状態になってる。秦野魅力推進課や道路課はどうした方がいいか現地を見て考えてくれている。デジタルガイドもホームページももっと積極的に知らせようという気が感じられない。例えば土日の登山客にお知らせチラシを配るとか出来ないものなのか。
- 商店街の活性化も街造りも秦野駅ばかり。行政がそんな差別化していいの？
- 市民サービスのデジタル化推進には、スマホ講座も必要だけど、もっと市役所として色んな手続きを徐々に半ば強制的にデジタル化する必要がある。コンビニのタブレット端末のように、もっと市民が必然的に電子機器に触れさせるような。市役所自体ももっとデジタル化するべき。なんだかんだ、まだまだ紙文化だし、それが見え隠れするから、私達もデジタル化に協力する必要がないと思っている。
- 電子地域通貨って、自ずと市民のデジタル化が進んでいる前提だけど、本当に大丈夫なのか。秦野市役所をぐるっと廻ってみると、まだまだ紙で仕事しているように見えるし、そんな市役所が電子化を訴えても、正直市民には全然響かない。部署によっては本当にこれで仕事しているのか？というくらい片付いてもないし。今の市役所のままでは協力する気にはなれないかな。
- 広報広聴課は掲載する内容とタイミングを考えるべき。政権が政治家給与増について政権が大バッシングを受けている中で、市民感情を逆撫でするようにこのデータを公開して、尚且つ市役所職員や議員も給与や手当増の議案を採決する見通し。これではあまりにも市民は納得出来ないし、意見の一つや二つくらいは言いたくなる。記事は毎年毎月毎日の事情によって掲載可否が変わってくるはず。それが、市民生活に直結するならまだしも、職員給与の公開はここで掲載するべきだったのか否か。広報広聴課として、しっかり頭を使って仕事してほしい。
- 産業振興課は自分達でこうしようとかああしようとかの気持ちがない。あるかもしれないがそれが伝わらない。ガイドブックもホームページサイトも真剣にお知らせをしようとして使って商店街に足を運んでもらうような取り組みをしているのか。随分前からあくまでも商店会主体にして上手く責任逃れしているような体質。担当部長職が出来たものの全然変わってない。非常に残念。
- メルカもレアリアも認知度が低い。行政として認知度向上は喫緊の課題ではないか。商店街も着実に高齢化してきている。空き店舗補助金は、仕組みだけあっても意味ない。大事なのはその補助金を使って商いする気概を持つ人が出てくる事。秦野はそれの支援や取り組みがほぼない。秦野で商いする気概の人の増やし方、生み出し方、何か方策を考えていたら、是非とも教えてほしい。
- 商店街の賑わいは、あくまでも駅周辺の賑わいの一部に過ぎない。つまり、駅周辺全体の賑わいの作り方や、それで秦野市全体をどう盛り上げるのか示すべき。でも、それが示されたのは秦野駅だけ。他の渋沢や鶴巻や東海を秦野市役所はどうしたいのか？秦野駅だけ進めているのは、あまりにも差別感があって気持ち良くない。
- 駅前商店街の賑わい云々の前に、秦野市として4駅をどうしたいのか？秦野駅はビジョンが出来たようだが、他の駅はどうなのか？それが固まらない限りどう頑張っても、方向性が定まっていないから意味がなくなる気がする。結局、どれもこれもやっているだけだから、まずは総合的な政策として秦野市の各駅周辺をどうしたいのか示してほしい。計画とか方針とか構想とか曖昧で分かりづらい。その具体的なイメージが出来てから、じゃあ商店街の活性化をどうすべきか考えるべきでは。各駅で抱えている事情も違うし、商店街の特色も様々だから。
- 秦野駅北口ばかり。他の駅の活性化は何もしていないように見える。自分が住んでいる渋沢は丘陵方針とかあるが、それから何にも社会実験もないし、本当にやる気あるのか疑問。
- デジタル化の推進として、デジタル庁のデジタル推進員を巻き込んで取り組んだらどうか？
- 商店街自体の存続価値や存在意義が問われている。大型スーパーが地域生活の中心となってネット販売も普及して、より商店街の利用薄に拍車が掛かり、商店会も高齢化してきている。だから、いかに若い人が秦野で商業をしてくれるか、存続はそれに懸かっている。市役所はもっと商店街存続に向けた取り組みを手厚くして加速化してほしい。空家補助金は商業をする気がある人向けの補助金であって、まずは秦野で商業をさせようという気にさせないといけない。それが出来ないなら、商店街で持っている倉庫や街灯の管理を秦野市役所ですべき。

- デジタルガイドやWEBサイトの認知度が低い時点で、秦野市役所の商店街に対する姿勢の熱意はたかが知れる。

○性別

| 項目 | 男性 | 女性 | 無回答 |
|-----|-----|----|-----|
| 回答数 | 108 | 46 | 9 |

○年齢

| 項目 | 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 60歳代 | 70歳代以上 |
|-----|------|------|------|------|------|--------|
| 回答数 | 11 | 17 | 50 | 77 | 7 | 1 |